

## 次期総合計画の「成長戦略」について

## 1 「成長戦略」と「横断テーマ」の整理

第11次総合計画では、「優先的に取り組むべき重点的な課題や、複数の分野別将来都市像にまたがる横断的な取組みが必要な課題」として「市民協働・都市内地域分権」「受益と負担の適正化」「次世代育成」の3つを「重点・横断テーマ」としていた。

次期総合計画では、新たに「成長戦略」を設定し、計画期間内に重点的に実施する事務事業を明示する。

横断テーマは設定しない。基本構想の前段に「行財政改革」「市民協働」「地方分権への対応」「絆づくり」の4点を全ての事務事業実施の際に必要な「計画推進にあたっての視点」として盛り込む。

## 2 成長戦略の設定

## (1) 成長戦略とは

市政運営の目標である「秋田市を元気にすること」「元気な秋田市を次の世代に引き継ぐこと」の実現を目指し、将来都市像別の体系にとらわれずに、成長させることが必要な分野のうち、特に重視する課題を選択し、一体的かつ集中的に行政資源を投入して事業を着実に展開するため、成長戦略を設定する。

成長戦略は、平成27年度までの計画期間内において重点的に実施することで、地域社会の活性化および高齢化・少子化の進行など時代の変化に適応した社会基盤の整備を実現する具体的な事務事業を集約したものである。

## (2) 基本構想および推進計画への位置付け

### ア 基本構想（議決対象）

市政運営の目標を踏まえ、以下の2テーマの下に6つの戦略を設定し、各戦略毎に目指す姿（到達点）を記載する。

(ア) 元気な「あきた」の創造

(イ) 元気を支える基盤づくり

### イ 推進計画

将来都市像別主要施策にとらわれずに、計画期間内に成長戦略が目指す姿を実現するため、重点的に実施する個々の事務事業を戦略毎に集約して記載する。

## (3) 成長戦略

成長戦略は、以下の6つとする。

テーマ	戦略名
元気な「あきた」の創造	戦略1 都市イメージ「ブランドあきた」の確立
	戦略2 地域産業の競争力強化
	戦略3 観光あきた維新
	戦略4 環境立市あきた
元気を支える基盤づくり	戦略5 エイジフレンドリーシティの実現
	戦略6 次世代の育成支援

（ 各戦略の具体的内容については「別紙」参考 ）

成長戦略

「秋田市を元気にすること」

「元気な秋田市を次世代に引き継ぐこと」の実現をめざす(目的)

政策課題を絞り込んで、一体的・集中的に施策を展開させる。ピンポイントで事業を重点化する。  
(市長公約の中長期的なものを再構成したものと見える。)

(元気な「あきた」の創造)	<b>戦略1 都市イメージ「ブランドあきた」の確立</b> (ねらい)市民や地元企業を定着させる。市外から人や企業を呼び込んで交流を促進する。	
	(課題・背景) ・住みたい、訪れたい都市として選ばれるための手がかりとなる訴える力が必要。 ・それには、「らしさ」「価値」を差別化し、トータルに知名度・好感度を高めるしかけて、愛着心や誇りを喚起する必要がある。 ・これまではこのような視点に欠けるきらいがあった。	(対応) ・「らしさ」「価値」という「ブランド」を確立してまちの個性をつくるため、ブランドの実体をつくりながら発信していく。
	(1) まちの顔づくり (2) 地域ブランド商品の開発と振興 (3) 芸術・文化によるまちおこし (4) クラブスポーツへの支援 (5) シティセールス	
	<b>戦略2 地域産業の競争力強化</b> (ねらい)市民の雇用や所得に直結する地域経済の足腰を強化する。	
	(課題・背景) ・地域経済全体を牽引するリーディング産業の創出など、産業基盤の強化が必要。 ・環日本海時代の強みとなる地理的優位性とインフラなどがある。 ・本市の資源や強みを生かして全体の成長を促進できる可能性がある。	(対応) ・波及効果の高い分野、強みを生かせる分野に特化して競争力を強化する。また、少子高齢化、地球温暖化対策、新興国での需要増へ対応した新たな産業の創出をめざす。
	(1) 実効ある企業集積 (2) 起業の促進 (3) 環日本海貿易の促進 (4) (5)	
<b>戦略3 観光あきた維新</b> (ねらい)観光による交流人口を増加させて経済効果を広く波及させるとともに地域を活性化させる。		
(課題・背景) ・インバウンドの増加やグリーンツーリズムといったトレンドなど、多様なスタイルをにらみながら戦略を練る必要がある。 ・県内、北東北観光のゲートウェイ機能が強み。 ・県と市町村の機能合体により広域的な観光戦略の充実が期待できる。	(対応) ・観光コンテンツのみがきあげや開拓、情報発信にトータルに取り組み、国内外からの誘客を図る。	
(1) 観光資源の発掘、タマ磨き (2) 大森山動物園の魅力アップ (3) 広域的な観光戦略の推進 (4) (5)		
<b>戦略4 環境立市あきた</b> (ねらい)資源循環型都市のモデルとなり、需要・産業・雇用を創出するチャンスを見出す。		
(課題・背景) ・環境分野はフロンティアであり、発展可能性を秘めている。 ・たとえば、「京都」に負けないくらいの環境と結びつく都市イメージづくりができれば大きなアドバンテージとなる。 ・森林、風力、太陽光などの資源を活用できる。	(対応) ・環境に配慮したまちづくりを率先し、環境分野における生活や産業面で他の地域をリードしてアピールしつつ、環境関連産業の集積を図る。	
(1) 自然エネルギーの利用拡大 (2) 森林の保全と活用 (3) エコビジネスの誘致 (4) モデル事業の実践 (5) 環境活動の促進		
<b>戦略5 エイジフレンドリーシティの実現</b> (ねらい)高齢社会に適応した社会システムを再構築する。		
(課題・背景) ・高齢社会では、高齢者＝支えられるべき人と決めつけては社会が成り立たない。 ・高齢者の経済活動や社会活動の影響は非常に大きくなる。 ・高齢者がその意欲と状態に応じて、社会参加、能力活用ができる社会をつくらなければならない。	(対応) ・WHOのエイジフレンドリーシティプログラムに我が国で最初に参加し、AFC構想に沿った取り組みを推進する。	
(1) AFC構想の普及啓発 (2) バリアフリー化の推進 (3) 高齢者の交通手段の確保 (4) 高齢者の社会参加・能力活用 (5)		
<b>戦略6 次世代の育成支援</b> (ねらい)少子化の抑制につながる社会システムを再構築する。		
(課題・背景) ・人口減少は社会のサステナビリティを脅かす。 ・少子化は人口減少に拍車をかけている。 ・生みたいという意欲を阻害する、経済的理由や育児負担などを社会が支えることで解消していく必要がある。	(対応) ・育児の負担を軽減するなど、少子化の障害を除きながら、子どもを生み育てやすい環境をつくる。	
(1) 待機児童の解消 (2) 若年者の自立 (3) 支え合いの機能の強化 (4) (5)		

(元気を支える基盤づくり)